

2-4 集計データ

2-4-1 学校

2-4-1-1 単純集計

* 「その他」の欄に記述された内容について集計時に精査し、共通の傾向が見い出されたものはまとめて分類している。
そのため、調査用紙にあらかじめ入れられていなかった項目が表われている。

配布件数	214
回収件数	124
回収率	57.9%

質問1 貴校の校種をお答えください。

回答項目	回収	構成率
1. 小学校(小学部)	80	64.5%
2. 中学校(中学部)	36	29.0%
3. 高等学校(高等部)	8	6.5%
合計	124	100%

質問2 貴校の所在地を都道府県でお答えください。

東日本(東北～中部)		西日本(近畿～九州)	
岩手県	2	大阪府	1
山形県	1	兵庫県	2
福島県	11	和歌山県	1
茨城県	1	岡山県	35
栃木県	2	広島県	18
千葉県	5	山口県	2
東京都	9	佐賀県	4
神奈川県	6	熊本県	1
岐阜県	6	鹿児島県	5
長野県	3	小計	69
静岡県	8		
愛知県	1		
小計	55	合計	124

質問3 貴校の全児童生徒数をお答えください。

平均	385.5 名
最大値	1326 名
最小値	16 名
中央値	344 名
回答数	120 校

質問4 V活動ツールの活用の有無に関わらず、貴校がボランティア活動に取り組み始めたのはいつ頃からですか。(西暦でお答えください)

最長	1913年4月
最新	2003年11月
最頻値	1999年4月
回答数	94

質問5 V活動ツールの活用状況についてお答えください。(平成15年11月現在)

回答項目	件数	割合
1. 活用している	87	70.2%
2. 現在は活用していない	37	29.8%
合計	124	100%

質問6 質問5で「1. 活用している」と答えた方に質問します。V活動ツールの活用内容について、以下の①～⑯までにお答えください。

① V活動ツールを活用した理由(きっかけ)は何ですか。各設問ごとに、その理由の度合いをお答えください。

※ 判断基準(各設問ごとに、この判断基準を基にして○を付けてください)

1. 大きな理由となった 2. 理由になった 3. あまり理由にはならなかった 4. まったく理由にはならなかった

<a.係数>

回答項目	件数					合計
	1	2	3	4	無回答	
1. ボランティア活動への児童生徒の参加を増やしたかったから	28	42	7	5	5	87
2. ボランティア活動に参加している児童生徒の意欲をさらに高めたかったから	29	36	12	3	7	87
3. ボランティア活動によって児童生徒の生活指導を充実させたかったから	11	41	24	7	4	87
4. 児童生徒のボランティア活動の記録になると思ったから	23	42	15	3	4	87
5. 地域とのつながりを強めたかったから	25	30	16	11	5	87
6. 外部の機関・団体から薦められたら	35	19	16	16	1	87

その他の理由・きっかけがあれば、お答えください。⇒ 自由回答

<b.割合>

回答項目	件数					合計
	1	2	3	4	無回答	
1. ボランティア活動への児童生徒の参加を増やしたかったから	32.2%	48.3%	8.0%	5.7%	5.7%	100%
2. ボランティア活動に参加している児童生徒の意欲をさらに高めたかったから	33.3%	41.4%	13.8%	3.4%	8.0%	100%
3. ボランティア活動によって児童生徒の生活指導を充実させたかったから	12.6%	47.1%	27.6%	8.0%	4.6%	100%
4. 児童生徒のボランティア活動の記録になると思ったから	26.4%	48.3%	17.2%	3.4%	4.6%	100%
5. 地域とのつながりを強めたかったから	28.7%	34.5%	18.4%	12.6%	5.7%	100%
6. 外部の機関・団体から薦められたら	40.2%	21.8%	18.4%	18.4%	1.1%	100%

② V活動ツールの名称は何ですか。

省略

③ いつ頃から実施していますか。(西暦でお答えください)

最長 1994年4月
最新 2003年11月
最頻値 2003年4月
回答数 77

④ V活動ツールの利用を提案したのはどなたですか。

回答項目	件数	割合
1. 校長	23	26.4%
2. 教頭	8	9.2%
3. 教員	8	9.2%
4. 教育委員会	33	37.9%
5. 市民団体	9	10.3%
6. 児童生徒	0	0.0%
7. 保護者	0	0.0%
8. その他	4	4.6%
無回答	2	2.3%
合計	87	100%

⑤ V活動ツールはどのような形態ですか。(複数回答可)

回答項目	件数	割合
1. パスポート(手帳)タイプ	72	83.7%
2. カードタイプ	15	17.4%
3. 生徒手帳にボランティア活動欄を設けている	1	1.2%
4. 表彰状	2	2.3%

⑤ V活動ツールはどのような形態ですか。(複数回答可)

回答項目	件数	割合
1. パスポート(手帳)タイプ	72	83.7%
2. カードタイプ	15	17.4%
3. 生徒手帳にボランティア活動欄を設けている	1	1.2%
4. 表彰状	2	2.3%
5. その他	2	2.3%
回答数	86	100%

⑥ V活動ツールの配布対象者はどのような方ですか。(複数回答可)

回答項目	件数	割合
1. 児童生徒	86	98.9%
2. 保護者	1	1.1%
3. 教職員	8	9.2%
4. その他	4	4.6%
回答数	87	100%

⑦ V活動ツールの配布単位は次のどれですか。(複数回答可)

回答項目	件数	割合
1. 全校児童生徒に一律	68	79.1%
2. 希望する学年	13	15.1%
3. 希望するクラス	1	1.2%
4. 希望するクラブ・部活動	2	2.3%
5. 希望者する児童生徒	4	4.7%
6. 全保護者	0	0.0%
7. 希望する保護者	0	0.0%
8. 全教職員	8	9.3%
9. 希望する教職員	0	0.0%
回答数	86	100%

⑧ V活動ツールの配布数についてお答えください。(概数で結構です)

平成14年度(平成14年4月から平成15年3月)

平均	414.9 枚
最大値	1400 枚
最小値	0 枚
中央値	378 枚
回答数	34 校

平成15年度(平成15年4月から11月末現在)

平均	259.7 枚
最大値	730 枚
最小値	0 枚
中央値	228 枚
回答数	85 校

⑨ V活動ツールは、どのような活動が対象となりますか。(複数回答可)

回答項目	件数	割合
1. ボランティア活動全般	82	95.3%
2. 福祉関係の活動	39	45.3%
3. 環境関係の活動	34	39.5%
4. 国際協力関係の活動	13	15.1%
5. 学校外活動	7	8.1%
6. 学校内活動	2	2.3%
7. その他	2	2.3%
回答数	86	100%

⑩ V活動ツールには、どのような内容が掲載されていますか。(複数回答可)

回答項目	件数	割合
1. V活動ツールの概要・説明	61	70.1%
2. カレンダー	3	3.4%
3. ボランティア活動の手引き・案内・注意事項	48	55.2%
4. 地域のボランティア活動団体一覧	11	12.6%
5. 広域のボランティア活動団体一覧	2	2.3%
6. ボランティア活動記録欄	75	86.2%
7. シール貼付・スタンプ押印欄	64	73.6%
8. ボランティア活動証明欄	32	36.8%
9. 感想	8	9.2%
10. その他	3	3.4%
回答数	87	100%

⑪ V活動ツールには、どのような事柄を記録することができますか。(複数回答可)

回答項目	件数	割合
1. 活動記録欄はない	3	3.4%
2. 活動日	78	89.7%
3. 活動時間	18	20.7%
4. 活動内容	79	90.8%
5. 活動回数	25	28.7%
6. 活動場所	28	32.2%
7. 感想・確認	23	26.4%
8. その他	4	4.6%
回答数	87	100%

⑫ 児童生徒が行うボランティア活動の達成基準(目標)は何ですか。(複数回答可)

回答項目	件数	割合
1. 回数	36	41.4%
2. 時間数	4	4.6%
3. 内容	10	11.5%
4. 特に達成基準はない	44	50.6%
5. 単位・ポイント・回数	5	5.7%
6. その他	5	5.7%
回答数	87	100%

⑬ V活動ツールには、どのようなインセンティブ(ボランティア活動を活性化するための誘因)が付けられていますか。(複数回答可)

回答項目	件数	割合
1. シール・スタンプ	53	62.4%
2. 割引・賞品等の特典	4	4.7%
3. 表彰	15	17.6%
4. 認定	16	18.8%
5. 寄附につながる	34	40.0%
6. 特にない	15	17.6%
7. その他	1	1.2%
回答数	85	100%

⑭ V活動ツールは貴校独自で作成したものでしょうか。

回答項目	件数	割合
1. 独自で作成した	8	9.2%
2. 他の団体が作成したものを活用させてもらった	41	47.1%
3. 他の団体から利用を依頼された	37	42.5%
4. その他	1	1.1%
回答数	87	100%

⑮ V活動ツールを活用して、どのような成果がありましたか。各設問ごとに、その成果の度合いをお答えください(回答が困難なものについては、回答されなくても結構です)。

※ 評価基準(各設問ごとに、この評価基準を基にして○を付けてください)

1. 大変成果があった 2. 成果があった 3. あまり成果が上がりなかった
4. まったく成果が上がりなかった

<a.係数>

回答項目	件数					合計
	1	2	3	4	無回答	
1. ボランティア活動の参加者が増えた	15	46	19	1	6	87
2. ボランティア活動の参加者同士のコミュニケーションが活性化した	1	39	34	3	10	87
3. 児童生徒の意欲が高まったり、ボランティア活動が盛んになった	14	52	16	0	5	87
4. 周囲から自分たちのボランティア活動への理解が深まった	8	35	31	2	11	87
5. 教職員の理解・協力が得られるようになった	5	52	20	1	9	87
6. 地域の理解・協力が得られるようになった	14	31	24	3	15	87
7. 行政の理解・協力が得られるようになった	12	28	19	8	20	87
8. 企業の理解・協力が得られるようになった	1	13	34	14	25	87
9. ボランティア活動の質が高まった	3	40	26	3	15	87
10. 活動範囲が広がった	8	39	23	5	12	87
11. 活動の種類が増えた	10	42	24	3	8	87
12. 運営協力者が増えた	4	25	35	3	20	87
13. ボランティア活動への資金等の援助が増えた	2	2	37	21	25	87

<b.割合>

回答項目	件数					合計
	1	2	3	4	無回答	
1. ボランティア活動の参加者が増えた	17.2%	52.9%	21.8%	1.1%	6.9%	100%
2. ボランティア活動の参加者同士のコミュニケーションが活性化した	1.1%	44.8%	39.1%	3.4%	11.5%	100%
3. 児童生徒の意欲が高まったり、ボランティア活動が盛んになった	16.1%	59.8%	18.4%	0.0%	5.7%	100%
4. 周囲から自分たちのボランティア活動への理解が深まった	9.2%	40.2%	35.6%	2.3%	12.6%	100%
5. 教職員の理解・協力が得られるようになった	5.7%	59.8%	23.0%	1.1%	10.3%	100%
6. 地域の理解・協力が得られるようになった	16.1%	35.6%	27.6%	3.4%	17.2%	100%
7. 行政の理解・協力が得られるようになった	13.8%	32.2%	21.8%	9.2%	23.0%	100%
8. 企業の理解・協力が得られるようになった	1.1%	14.9%	39.1%	16.1%	28.7%	100%
9. ボランティア活動の質が高まった	3.4%	46.0%	29.9%	3.4%	17.2%	100%
10. 活動範囲が広がった	9.2%	44.8%	26.4%	5.7%	13.8%	100%
11. 活動の種類が増えた	11.5%	48.3%	27.6%	3.4%	9.2%	100%
12. 運営協力者が増えた	4.6%	28.7%	40.2%	3.4%	23.0%	100%
13. ボランティア活動への資金等の援助が増えた	2.3%	2.3%	42.5%	24.1%	28.7%	100%

その他(ご自由にお書きください) ⇒ 自由回答

⑯ V活動ツールを活用するにあたり、どのような点に苦労されましたか。最も苦労した点について3つまで○を付けてください。

回答項目	件数	割合
1. 資金の調達	3	3.8%
2. しきみづくり	11	14.1%
3. 参加者の募集	16	20.5%
4. 参加者への周知	40	51.3%
5. 教職員への周知	22	28.2%
6. 活動の継続	29	37.2%
7. 他の学校との連携	0	0.0%
8. 地域との連携	27	34.6%
9. 行政との連携	5	6.4%
10. 企業との連携	0	0.0%
11. ボランティア団体との連携	6	7.7%
12. ボランティア活動情報の収集	5	6.4%
13. ボランティア受入れ団体との連絡・調整	11	14.1%
14. その他	5	6.4%
回答数	78	100%

※また、上記の問題についてどのように解決したか、回答番号ごとにお書きください。 ⇒ 自由回答

⑩ V活動ツールの活用状況を把握するためにどのような工夫をしていますか。

回答項目	件数	割合
1. 配布するだけで特に何もしていない	26	29.9%
2. 定期的を確認している	36	41.4%
3. 随時確認している	6	6.9%
4. 取り組み期間の最後に一度だけ確認している	18	20.7%
5. その他	1	1.1%
回答数	87	100%

⑪ 総合的にみて、V活動ツールの成果に満足されていますか。

回答項目	件数	割合
1. 大変満足している	3	3.4%
2. 満足している	48	55.2%
3. あまり満足していない	36	41.4%
4. まったく満足していない	0	0.0%
回答数	87	100%

※ その理由についてお答えください。⇒ 自由回答

⑫ 現在使用しているV活動ツールについて、今後、改善・追加できればよいと思う内容やインセンティブについてお答えください。(複数回答可)

回答項目	件数	割合
1. V活動ツールの概要・説明	7	9.1%
2. カレンダー	10	13.0%
3. ボランティア活動の手引き・案内・注意事項	20	26.0%
4. 地域の活動団体一覧	22	28.6%
5. 広域の活動団体一覧	8	10.4%
6. 活動記録欄	7	9.1%
7. シール貼付・スタンプ押印欄	10	13.0%
8. シール・スタンプのやり方	7	9.1%
9. ボランティア活動証明欄	10	13.0%
10. 割引・賞品等の特典	0	0.0%
11. 表彰制度の導入	12	15.6%
12. 認定制度の導入	4	5.2%
13. 寄附団体の募集やその寄附先の選定・選択	4	5.2%
14. 特になし	20	26.0%
15. その他	1	1.3%
回答数	77	100%

質問7 質問5で「2. 現在は活用していない」と答えた方に質問します。
V活動ツールを中止した理由についてお答えください。(複数回答可)

回答項目	件数	割合
1. 成果がなかった	7	21.9%
2. 予算がなくなった	0	0.0%
3. 教育方針が変わった	2	6.3%
4. 目的を達成した	1	3.1%
5. 担当の教職員がいなくなった	5	15.6%
6. 単年度だけの取り組みだった	7	21.9%
7. その他	13	40.6%
回答数	32	100%

※「1. 成果がなかった」に回答された方は、その原因をお書きください。⇒ 自由回答

質問8 V活動ツールについて、既存のものにこだわらず、新しいアイデア等があればお書きください。⇒ 自由回答

質問9 今後、ボランティア活動を推進していく、もしくは活性化していくためには以下のような考え方や手法等に賛成ですか？全質問に対して「賛成する」「賛成しない」のどちらかに○を付けてください。

<a.係数>

	賛成	賛成しない	無回答	合計
(1) ボランティア活動は自主的に取り組むべきものである。	116	8	0	124
(2) 楽しくできなければボランティア活動ではない。	51	72	1	124
(3) ボランティア活動は積極的に表彰すべきだ。	61	61	2	124
(4) ボランティア活動をしたら、それを積極的にPRすべきだ。	68	54	2	124
(5) ボランティア活動の最初のきっかけは、褒美等を目当てにしたものでもよい。	47	76	1	124
(6) ボランティア活動をしたことに対して褒美等を用意してもよい。	61	61	2	124
(7) ボランティアを強調することには抵抗がある。	55	67	2	124
(8) 児童生徒が選択できるボランティア活動メニューを学校ができるだけ多く揃えるべきだ。	81	39	4	124
(9) ボランティア活動は社会のルールやマナーを学ぶうえで有効だ。	119	4	1	124
(10) ボランティア活動を学校が評価することは、活動の活性化につながる。	91	31	2	124
(11) 親子参加型のプログラムをもっと推進すべきである。	112	10	2	124
(12) 教職員や大人がボランティアの内容を聞いてやり、ほめることが大切だ。	117	5	2	124
(13) 大学生や高校生を、小中学生ボランティアの指導者として育成したらよい。	108	16	0	124
(14) 放課後や休日のボランティア活動を進めるためには、もっと積極的に学校開放をすべきだ。	54	69	1	124
(15) 「ボランティアはちょっとカッコいい」というイメージを広めたほうが効果がある。	49	73	2	124
(16) 児童生徒の興味により内容は違っても、ボランティア活動は全員に体験させるべきだ。	104	19	1	124
(17) ボランティア活動を子どもに勧める前に、親や教職員が体験すべきだ。	99	24	1	124
(18) ボランティア活動に先立って、「Vとは何か」という学習が必要だ。	109	15	0	124
(19) ボランティア活動を学校で行うには校務分掌や委員会を正式に設けるべきだ。	77	45	2	124
(20) 教育活動で行うボランティア活動は、指導を受け入れ団体に任せるべきだ。	29	91	4	124
(21) 「総合的な学習の時間」や「特別活動」などあらゆる機会をとらえてボランティア活動をすべきだ。	98	23	3	124
(22) 学業よりボランティア活動のほうに熱心な児童生徒がいてもよい。	56	64	4	124
(23) ボランティア活動を行っている他の学校と積極的に情報交換すべきだ。	108	15	1	124
(24) ボランティア活動に学校は関わるべきではない。	6	117	1	124
(25) ボランティア活動を活発にしたいけど、現状では教師にそのゆとりがない。	92	31	1	124
(26) 児童生徒にはボランティア活動の機会を意図的に提供したほうがよい。	116	8	0	124
(27) ボランティア活動の推進にはV活動ツールがあったほうがよい。	99	21	4	124
(28) V活動ツールは使って楽しいものにすべきだ。	105	15	4	124
(29) 児童生徒と家族や大人と一緒に使える共通のV活動ツールがあるとよい。	107	13	4	124
(30) V活動ツールは希望者だけでなく、全員に配布すべきである。	85	36	3	124
(31) V活動ツールには活動の精神を盛り込むべきだ。	103	18	3	124
(32) 活動を記録できるV活動ツールは、利用状況を定期的に確認すべきだ。	73	47	4	124
(33) 一緒にV活動ツールを使う仲間・団体を増やすべきだ。	91	28	5	124
(34) V活動ツールの対象となる活動内容は限定したほうがよい。	22	96	6	124
(35) ボランティア活動は学校だけでなく、地域の人や団体と協力して進めることが必要だ。	121	2	1	124
(36) 地域の人やボランティア団体の協力を得て子ども達のボランティア活動の認定をすべきである。	89	31	4	124
(37) 環境や福祉のNPOに学校でのボランティア活動の企画を提案してほしい。	78	43	3	124
(38) ボランティア活動は身近な地域で行うべきである。	108	15	1	124
(39) 一緒にボランティア活動する仲間と連帯感を持てるような交流会などの仕組みが必要だ。	97	21	6	124
(40) 就職や進学に際して、ボランティア活動実績が評価されるとよい。	80	41	3	124

<b.割合>

	賛成	賛成しない	無回答	合計
(1) ボランティア活動は自主的に取り組むべきものである。	93.5%	6.5%	0.0%	100%
(2) 楽しくできなければボランティア活動ではない。	41.1%	58.1%	0.8%	100%
(3) ボランティア活動は積極的に表彰すべきだ。	49.2%	49.2%	1.6%	100%
(4) ボランティア活動をしたら、それを積極的にPRすべきだ。	54.8%	43.5%	1.6%	100%
(5) ボランティア活動の最初のきっかけは、褒美等を目当てにしたものでもよい。	37.9%	61.3%	0.8%	100%
(6) ボランティア活動をしたことに対して褒美等を用意してもよい。	49.2%	49.2%	1.6%	100%
(7) ボランティアを強調することには抵抗がある。	44.4%	54.0%	1.6%	100%
(8) 児童生徒が選択できるボランティア活動メニューを学校ができるだけ多く揃えるべきだ。	65.3%	31.5%	3.2%	100%
(9) ボランティア活動は社会のルールやマナーを学ぶうえで有効だ。	96.0%	3.2%	0.8%	100%
(10) ボランティア活動を学校が評価することは、活動の活性化につながる。	73.4%	25.0%	1.6%	100%
(11) 親子参加型のプログラムをもっと推進すべきである。	90.3%	8.1%	1.6%	100%
(12) 教職員や大人がボランティアの内容を聞いてやり、ほめることが大切だ。	94.4%	4.0%	1.6%	100%
(13) 大学生や高校生を、小中学生ボランティアの指導者として育成したらよい。	87.1%	12.9%	0.0%	100%

(14) 放課後や休日のボランティア活動を進めるためには、もっと積極的に学校開放をすべきだ。	43.5%	55.6%	0.8%	100%
(15) 「ボランティアはちょっとカッコいい」というイメージを広めたほうが効果がある。	39.5%	58.9%	1.6%	100%
(16) 児童生徒の興味により内容は違っても、ボランティア活動は全員に体験させるべきだ。	83.9%	15.3%	0.8%	100%
(17) ボランティア活動を子どもに勧める前に、親や教職員が体験すべきだ。	79.8%	19.4%	0.8%	100%
(18) ボランティア活動に先立って、「Vとは何か」という学習が必要だ。	87.9%	12.1%	0.0%	100%
(19) ボランティア活動を学校で行うには校務分掌や委員会を正式に設けるべきだ。	62.1%	36.3%	1.6%	100%
(20) 教育活動で行うボランティア活動は、指導を受け入れ団体に任せるべきだ。	23.4%	73.4%	3.2%	100%
(21) 「総合的な学習の時間」や「特別活動」などあらゆる機会をとらえてボランティア活動をすべきだ。	79.0%	18.5%	2.4%	100%
(22) 学業よりボランティア活動のほうに熱心な児童生徒がいてもよい。	45.2%	51.6%	3.2%	100%
(23) ボランティア活動を行っている他の学校と積極的に情報交換すべきだ。	87.1%	12.1%	0.8%	100%
(24) ボランティア活動に学校は関わるべきではない。	4.8%	94.4%	0.8%	100%
(25) ボランティア活動を活発にしたいけども、現状では教師にそのゆとりがない。	74.2%	25.0%	0.8%	100%
(26) 児童生徒にはボランティア活動の機会を意図的に提供したほうがよい。	93.5%	6.5%	0.0%	100%
(27) ボランティア活動の推進にはV活動ツールがあったほうがよい。	79.8%	16.9%	3.2%	100%
(28) V活動ツールは使って楽しいものにすべきだ。	84.7%	12.1%	3.2%	100%
(29) 児童生徒と家族や大人と一緒に使える共通のV活動ツールがあるとよい。	86.3%	10.5%	3.2%	100%
(30) V活動ツールは希望者だけでなく、全員に配布すべきである。	68.5%	29.0%	2.4%	100%
(31) V活動ツールには活動の精神を盛り込むべきだ。	83.1%	14.5%	2.4%	100%
(32) 活動を記録できるV活動ツールは、利用状況を定期的に確認すべきだ。	58.9%	37.9%	3.2%	100%
(33) 一緒にV活動ツールを使う仲間・団体を増やすべきだ。	73.4%	22.6%	4.0%	100%
(34) V活動ツールの対象となる活動内容は限定したほうがよい。	17.7%	77.4%	4.8%	100%
(35) ボランティア活動は学校だけでなく、地域の人や団体と協力して進めることが必要だ。	97.6%	1.6%	0.8%	100%
(36) 地域の人やボランティア団体の協力を得て子ども達のボランティア活動の認定をすべきである。	71.8%	25.0%	3.2%	100%
(37) 環境や福祉のNPOに学校でのボランティア活動の企画を提案してほしい。	62.9%	34.7%	2.4%	100%
(38) ボランティア活動は身近な地域で行うべきである。	87.1%	12.1%	0.8%	100%
(39) 一緒にボランティア活動する仲間と連帯感を持てるような交流会などの仕組みが必要だ。	78.2%	16.9%	4.8%	100%
(40) 就職や進学に際して、ボランティア活動実績が評価されるとよい。	64.5%	33.1%	2.4%	100%